

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700207		
法人名	株式会社 光華の杜		
事業所名	えくせれんと鶴舞 2F		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和6年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「美味しい食事と月に1回の特別食」日本料理を専攻した職員が調理を担当し、ご利用者様から大好評をいただいています。また、月に1回特別食を提供し、これまで懐石料理、洋食や中華のコースを提供させていただき、その本格的な出来栄に驚かれています。
 「鶴舞公園散策」施設から歩いて三分のところに鶴舞公園があり、四季ごとに様々なイベントが行われており、ご利用者様で出かけ地域の方々と交流を図っています。
 「多彩のレクリエーション」ピアノの先生や劇団員など様々な経歴の職員がおり、レク委員を中心に毎日異なるメニューのレクを実施しています。また毎月、外部のボランティアさんにもお越しいたいただき、音楽療法やヨガ、フラダンス等レクを実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月に一度の特別食のみならず、ふだんの食事の質が高く、食の楽しみが得られている。また調理担当の職員をはじめとして、そのほかにもピアノ講師やもと劇団員などが職員としており、そのスキルを活かすことで単調にならない事業所での生活がある。さらに職員からのつながりでフラダンスのボランティアや、ヨガのボランティアの来所もあり、利用者の楽しみの時間となっている。さらに、職員が消防団に参加することで、利用者とともに消防団活動に参加する機会も得られた。学校のプールとゴムボートを使っての避難訓練も参加できた。
 法人の系列事業所から理学療法士が来所し、職員へむけて体位交換のやり方などの講習会を開催し、実際のケアで気になることやこんな時にはどうすればいいの、という質疑応答の時間をもつことで、各自のスキルアップにつなげることができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700207		
法人名	株式会社 光華の杜		
事業所名	えくせれんと鶴舞 3F		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和6年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「美味しい食事と月に1回の特別食」日本料理を専攻した職員が調理を担当し、ご利用者様から大好評をいただいています。また、月に1回特別食を提供し、これまで懐石料理、洋食や中華のコースを提供させていただき、その本格的な出来栄に驚かれています。
 「鶴舞公園散策」施設から歩いて三分のところに鶴舞公園があり、四季ごとに様々なイベントが行われており、ご利用者様で出かけ地域の方々との交流を図っています。
 「多彩のレクリエーション」ピアノの先生や元劇団員など様々な経歴の職員がおり、レク委員を中心に毎日異なるメニューのレクを実施しています。また毎月、外部のボランティアさんにもお越しいただき、音楽療法やヨガ、フラダンス等レクを実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700207		
法人名	株式会社 光華の杜		
事業所名	えくせれんと鶴舞 4F		
所在地	名古屋市昭和区鶴舞3丁目8番10		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和6年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「美味しい食事と月に1回の特別食」日本料理を専攻した職員が調理を担当し、ご利用者様から大好評をいただいています。また、月に1回特別食を提供し、これまで懐石料理、洋食や中華のコースを提供させていただき、その本格的な出来栄に驚かれています。
 「鶴舞公園散策」施設から歩いて三分のところに鶴舞公園があり、四季ごとに様々なイベントが行われており、ご利用者様で出かけ地域の方々と交流を図っています。
 「多彩のレクリエーション」ピアノの先生や元劇団員など様々な経歴の職員がおり、レク委員を中心に毎日異なるメニューのレクを実施しています。また毎月、外部のボランティアさんにもお越しいただき、音楽療法やヨガ、フラダンス等レクを実施しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念を毎日の朝礼で唱和を行っており、施設理念については玄関先に掲示。実践にむけて繋げている。	玄関先に掲示されている施設理念は、利用者と家族に愛され信頼され、感動、喜び、優しさ、安らぎ、安全を与えることをうたい、職員はそれを理解したうえで地域で一番のケアを目指し努力し、支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	普段から近くの公園に散歩を行うことから地域の人と挨拶を交わしている。レクリエーションで使用する、古いかき氷機など地域の方から無償で借りるなど交流を図っている。	地域の人と職員や元職員を通して知り合いの輪を広げ、ボランティアにきてもらったり、消防団活動に参加するなど、交流がある。特に今年度は事業所のこと、グループホームや小規模多機能施設とは何かを知ってもらうために、地域にチラシを配布し食事会を開催し、住民に足を運んでもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談などの際に、認知症の種別によって対応方法の違いなどを説明している。最近では地域の方向けにイベントも開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナウイルス対策から照会、報告が主となっている。	コロナが5類移行したものの、事業所内での感染をおさえるため、今年度も書面開催を続けた。町内会長、民生員、協力医、いきいき支援センター職員を構成員とし、書面を郵送し、意見や感想、地域行事の情報などを電話や往診時を利用して得ている。	次年度は対面での開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの依頼により、管理者が認知症の家族サロンの講師を担った。今後も要請があれば協力していく。	区の窓口には認定更新の書類提出などで足を運んでいる。今年度はいきいき支援センターの依頼で認知症の講習会の講師を担った。研修情報は得られており、必要な研修には参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月全体会議において、身体拘束廃止委員から報告があり、緊急止むを得ない場合のみであって、必要な段取りがされない場合は虐待になることを都度説明を行っている。玄関、エレベーターに関しては安全面、防犯も兼ね家族様に同意を得て施錠している。	法人の研修が年に二度あり、また施設内の身体拘束廃止委員を中心に毎月全体会議で話し合っている。例えば安全に配慮しつつ拘束しないベッド柵の配置はどうやったらいいか、皆で意見を出しあい工夫している。スピーチロックなども職員同士が注意しあえる環境である。安全のために玄関、エレベーターには施錠がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を構成、委員は出勤した際に各階の巡視を行っている。虐待に関するアンケートや本部直通の連絡先を更衣室に掲示し周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンスルール(利用者権利擁護指針)を掲示し職員の意識付けを行っている。その他の制度については研修などをする機会も設けているが依然として理解不足を感じており今後の課題でもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約終了の際には契約書・重要事項説明書・同意書などご本人様やご家族様に説明し、ご理解・ご納得いただいた上で、ご署名・ご捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係者の方々からより多く意見がいただける様に投書箱を玄関に設置させて頂いている。その他、アンケートなども行い、意見などがあつた場合は迅速に対応し運営推進会などでも報告をしている。	面会時や電話連絡を通し、家族に要望や意見をきくようにしている。出された要望は職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・フロアーミーティング・研修会・各委員会を毎月開催し、職員の意見や提案を聴ける様にしている。またサイボウズといったインターネットサービスを活用し、職員間の連絡ツールとして活用している。	職員からは支援について意見があがる。今年度あつた例として、亡夫が気になり帰宅願望が募る利用者に対し、職員が話し合い、亡夫は存命だが体調を崩しているので事業所でまっていようと声掛けを統一することでこの生活が落ち着きを見せた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価シートを個々に作成してもらいそれに応じて半年に1回面談し、個々の努力や目標達成度、その他相談や指導を行っている。またストレスチェックツールを使用し、健康管理に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修 外部研修についても参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の、認知症研修に参加し、他事業所とのネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前には必ずアセスメントを行い、ご利用者様やご家族様のニーズを踏まえたケアプランを作成。担当者会議にて説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず施設の見学にお越し頂き、全てのフロアを案内しその後施設の詳細な対応などを説明している。またアセスメントを行い家族様のニーズに関してもケアプランに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントにて、車椅子や歩行器の必要性などを考え状況に応じ、福祉用具の導入を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な施設サービスの利用ではなく利用者の必要性を考え状況に応じ福祉用具の導入を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日用品の買い物、病院の付き添い、福祉用具などの選定など、ご家族様が介入できる場合は積極的にご家族様の参加もいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会規制も緩和し、ご家族様、ご友人その他関係者の方々に気軽にいつでも来ていただける様に声を掛けさせて頂いている。その他地域のお祭りや行事、昔なつかしい場所等出来るだけ行ける様にし関係性の継続に努めている。	面会制限が緩和され、家族や友人が事業所を訪ねてくれる。また、家族が月命日に実家へ連れてもどってくれる人もいる。年賀状のやりとり、電話のやりとりもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業が必要なレクリエーションの導入を行っており季節感が演出できるような貼り絵など共同制作し関係構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、ご家族の方にボランティアとしてレクリエーションをお願いする等、関係性の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各フロアー会議の際に、個人のケースカンファレンスを行い、今のご本人様に必要な支援やご本人様やご家族様の要望を職員が確認できるように心がけている。	職員は利用者の思いを関わりの中で汲み取るようにしている。困難な場合は家族に聞いたり、選択できる言葉がけで表情や行動をみながら支援に努めている。得た情報はフロア会議で職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにて、出身、仕事、好きな食べ物、嫌いな食べ物、趣味や生きがい、その他介護保険を申請したきっかけなど聞き取りを行い、情報の共有化を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン3表に個々のスケジュールを記載し把握するように努めている。また心身状態に関しては毎日の朝礼の際に申し送りを行い、情報の共有化を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロアー会議を定期的開催し、ご本人様を始めご家族様など関係者からの意見を徴収したうえで介護計画に反映できるようにしている。	モニタリングは毎月実施し、職員は担当制を取っている。介護計画は毎月のフロア会議で職員の意見やアイデア、事前に聞いた家族の要望等を踏まえて検討し半年ごとに見直している。状態変化時には都度見直し、基本郵送で家族の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には個々の介護計画が分かる様にファイルに添付しそれに沿っての記録を行う事で職員間でしっかり理解し、実践や介護計画の見直しなどが行えるように考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	救急車を必要としない場合の病院への送迎(家族立会い不可の場合)や院内の付き添いを実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会資源との連携を図り、民生委員や町内会長にも協力していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診時に個々の経過や今後の対応などについて話し合いを行っている。	現在利用者は協力医の月2回の往診を受けている。脳外科等かかりつけ専門医の受診は家族受診をお願いしているが職員が代行する場合もある。日常の健康状態の確認や相談は1階の小規模多機能の看護師と協働・連携している。定期的に訪問歯科や歯科衛生士の口腔指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診の他にも常時、病状の変化や何かあった場合は看護師に相談などし指示を受けている。居宅療養管理指導抜粋		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には今後の方向性や生活面での注意点など聞きに病院への訪問や電話をし、福祉用具の手配や医療情報を早めに入手し情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については契約時に重度化対応指針として説明し同意を得ている。「施設で最期までおねがいします」というご家族様の意見が多い。看取りに関する職員研修に関しては今後実施する予定。	施設の重度化や終末期方針を入居の際に説明し同意を得ている。都度状態変化があれば家族、医師、本人等と情報を共有し支援に取り組んでいる。今年度は看取りは行われなかった。3月には全体会議の中で看護師による「看取りの研修」を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現在のところ、職員から管理者への連絡を行い合わせて、かかりつけ医からの指示を受け対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員に来ていただき、図上訓練を実施したり、避難訓練を定期的にも実施し地域の方々も高齢者施設であるという認識、理解をして頂いている。避難場所などの確認も行っており職員に周知している。	4月は消防署署員による初期消火の指導を受け利用者も参加した昼想定訓練を、9月は夜想定で水害に向け職員の止水版設置周知の訓練を実施した。職員が地域の消防団の防災訓練や活動に参加して地域との協力体制構築に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マナー・接遇は法人の理念でもあり徹底した指導を行っている。出来るだけご本人様の意見や言葉を尊重し支援にあたるように心がけている。	職員は年1回、法人開催の接遇研修をzoomで受け、人格を損ねない対応を心がけている。管理者は利用者と「自分の身内に接するような言葉がけ」で信頼関係を築いてほしいと指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々にしっかり向き合って会話を行うように指導しており、会話が困難な方については、ご本人様が答えやすいコミュニケーションをする様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応としては、掃除や調理の下準備など職員と同行し役割を持てるように援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在は2か月に1回理美容にも来て頂き、整容の管理を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師免許を所持する職員により、美味しい料理提供を心掛けている。また、月に1回特別食を提供し洋食や中華のコースを提供し、ご好評をいただいている。	「食事が生活の中で楽しみとなって欲しい」との思いから調理専門の職員が日常のメイン料理や月1回の特別食を調理している。フロアではごはんと汁物を準備し、利用者の状態にあわせた食事形態で提供している。お誕生日にはケーキを手作りし、おやつレクでハロウィン時にはプリンを作ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半月に1回栄養スクリーニングを行っているが毎日の水分量に関してはおおよそ1Lを目安にしている・他1階厨房に関しては減塩。禁止食材など把握できるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。職員が付きっきり状態の確認が出来る様に心がけている。また歯科衛生士による毎月の訪問にて指導を受けており、職員への指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導を行い、夜間は必要に応じてパット交換やポータブルトイレの誘導を行っている。排尿などの間隔を把握する事で、日中のオムツの使用を防ぐように努めている。	排せつチェック表で個々のリズムを把握し、日中はなるべくトイレで排せつできるよう声掛けや誘導をしている。夜間帯は睡眠を優先しながらポータブルトイレを併用したり、個々の状態を見て都度対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認行う事で早期に対応が出来る様に心がけている。毎日の体操やヨーグルトなどの乳製品、その他食物繊維を摂って頂ける様に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回は入浴をして頂ける様に促している。ご本人様の希望を伺い、入浴時間や曜日などを対応し個別ケアに努めている。	週2回午前の時間帯で入浴している。石けんやシャンプー等は共用だが、皮膚の弱い方で個別に持ち込みをされる方もある。入浴剤は使用しないが、季節のゆず湯を取り入れたりして入浴が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度でご本人様の希望に合わせて休息を取っていただける様にしている。夜間しっかり休んでいただく為に日中出来るだけ活動できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1階事務所に服薬庫が配置している。服薬ポケットを各階に配置しセッティングに関してはダブルチェックし、2名体制で行っている服薬時は職員が手渡しで行う。また服薬の変更の際や、転倒事故があった場合、かかりつけ医の相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や好みなどをご本人様やご家族様から情報収集し、生活歴に沿った支援を心掛けている。 近所の公園に出かけることで、気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の鶴舞公園には積極的に出かけ、気分転換が図られている。	以前より天候や利用者の状態を見ながら外出の機会を増やし、気分転換に努めている。近隣の鶴舞公園には季節ごとに出かけ、お花見やバラ園、紅葉等を楽しんでいる。家族の協力のもと散歩や外食、喫茶店へ出かけられる方もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、財布は個人で持っていていない。何かを購入される際にはご家族様に確認をさせていただいた上で施設で立替させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	iPadを使いWEB面談を実施している。また、電話も従来通り活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるような装飾を行うように心がけている。	壁には季節を感じられる飾りつけや毎日のレクリエーション内容が記載されたカレンダーが掲示されている。廊下はまっすぐで広く移動しやすいつくりとなっている。空気清浄機が随所におかれ感染対策も図られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアーにソファを設置し決まった座席以外で、ご利用者様同士話し込める環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に協力して頂き、自宅で使われていた家具や写真などを部屋に飾っていただける様にしている。	掲示物はなくすっきりとした居室が多い。ベッド、エアコン、カーテンは備え付けで、使いなれた家具や仏壇、遺影等が持ち込まれ居心地よく過ごせるよう工夫している。掃除や換気は職員が行い衛生的で快適な環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々居室には塗り絵で作ったカレンダーを貼っている。		